

一般社団法人日本医療薬学会
平成 30 年度第 3 回定例理事会 議事録

一．開催日時：平成 30 年 6 月 15 日（金） 13 時 ～ 16 時 50 分

二．開催場所：日本薬学会長井記念館 会議室 A・B

三．出席者

会 頭：奥田 真弘

副会頭：山田 安彦、山本 康次郎、千堂 年昭

理 事：青山 隆夫、出石 啓治、井関 健、伊藤 清美、大谷 壽一、
吉光寺 敏泰、崔 吉道、佐藤 淳子、武田 泰生、寺田 智祐、
峯村 純子、山田 清文

監 事：安原 真人、山元 俊憲

陪席者

顧 問：木平 健治、佐々木 均、山本 信夫、和田 一夫

事務局：星 隆弘

欠席者

理 事：川上 純一、河原 昌美、宮崎 長一郎、望月 眞弓

監 事：大森 栄

顧 問：五十嵐 邦彦

四．議長：奥田 真弘

五．会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 16 名の出席があり、定款第 38 条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨が報告された。

六．議事の経過の概要及びその結果

1. 平成 30 年度第 2 回定例理事会議事録の確認

議長より、本年 3 月 25 日に開催された平成 30 年度第 2 回定例理事会議事録を基に議事内容が確認され、修正等がある場合には本理事会終了時までには指摘するよう要請があった。

2. 第 10 回定時社員総会議事録の確認

議長より、本年 3 月 25 日に開催された第 10 回定時社員総会議事録を基に議事内容の確認が行われ、修正等がある場合には本理事会終了時までには指摘するよう要請があった。

3. 平成 30 年度第 1 回臨時理事会議事録の確認

議長より、本年 3 月 25 日に開催された平成 30 年度第 1 回臨時理事会議事録を基に議事内容の確認が行われ、修正等がある場合には本理事会終了時までには指摘するよう要請があった。

続いて、前回理事会から昨日までに開催された各委員会等の会務状況が報告された。

4. 協議事項

(1) 各委員会の編成等

議長より、各委員会の委員長より提示された情報を取りまとめた平成 30・31 年度各委員会の編成リストに基づき、原則として委員会細則に則り委員の連続就任年数及び併任数の制限が考慮されて編成されたこと、ただし、一部の委員については当該制限から逸脱して就任しているが、委員会活動の継続性に鑑み、やむを得ない措置であることが説明された。

続いて、前体制に引き続き、五十嵐氏、木平氏、山本氏、和田氏と共に、新たに前会頭の佐々木氏を含めた 5 名を本学会の顧問として委嘱する旨の提議があり、協議した結果、了承された。

また、JPHCS 編集委員会担当の大谷理事より、同誌に係る円滑な編集作業を進めるために、同編集委員会に適用される員数制限の解除を求める要請があった。協議した結果、委員会細則の別記 3（「委員会委員の員数 10 名以内とする」という要件を適用しない委員会）に JPHCS 編集委員会を追記すること、それに伴い委員会細則を改正することが了承された。

(2) 会頭からの諮問

議長より、配付資料に基づき、自身の会頭からの各委員会委員長への諮問事項として、平成 30 年度の事業計画とは別に、今後 2 年間にわたって各委員会で取り組んで欲しい事項を示したものであることが説明された。

(3) 平成 30 年度各学会賞の選考

1) 功績賞受賞者の決定

議長より、功績賞選考委員会において、今年度の功績賞受賞候補者として、本理事会に 3 名の候補者を推挙したことが説明された。協議した結果、次の 3 氏への功績賞授与が了承された。（以下、五十音順）

- ・青山 隆夫 氏（東京理科大学 薬学部）
- ・佐々木 均 氏（長崎大学病院 薬剤部）
- ・谷川原 祐介 氏（慶應義塾大学 医学部）

また、功績賞の選考経緯及び提議として、同賞の選考規程では「受賞は原則 2 名以内とする」とされているが、平成 25 年及び 27 年にそれぞれ 3 名に授賞した実績があったこと、また来年度以降も授賞対象者が控えていることより、今年は 3 名を選考することに至ったことが説明された。それに伴い、選考規程の改正案として「受賞

は原則 3 名以内とする」という変更案が述べられ、協議した結果、同選考規程の改正が了承された。

2) 学術貢献賞受賞者の決定

山田(清)理事より、今年度の学術貢献賞への応募者は 1 名であったことと、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会において同賞選考規程に基づき選考した結果、同応募者を学術貢献賞の受賞候補者として本理事会に推挙したことが説明された。協議した結果、次の 1 名への学術貢献賞の授与が了承された。

- ・内田 享弘 氏 (武庫川女子大学 薬学部)

3) 奨励賞受賞者の決定

山田(清)理事より、今年度の奨励賞への応募者は 7 名であったことと、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会において同賞選考規程に基づき選考した結果、3 名を奨励賞の受賞候補者として本理事会に推挙したことが説明された。協議した結果、次の 3 名への奨励賞の授与が了承された。(以下、五十音順)

- ・小瀬 英司 氏 (日本大学 薬学部)
- ・長井 紀章 氏 (近畿大学 薬学部)
- ・山本 武人 氏 (東京大学大学院薬学系研究科)

4) 論文賞受賞論文の決定

吉光寺理事より、論文賞選考委員会による今年度の論文賞受賞候補論文の選考結果として、3 編を受賞候補論文として推挙したこと及び選考理由が説明された。協議した結果、次の 3 編に論文賞を授与することが了承された。

- ・「データマイニング手法を用いたガンシクロビル誘発性好中球減少症の要因分析」
著者 今井俊吾, 山田武宏, 小林正紀, 笠師久美子, 井関健
(医療薬学 Vol. 43, #10, 552-562)
- ・「滋賀県全域で 5 年にわたり展開された CKD シールのアウトカム評価」
著者 磯野哲一郎, 國津侑貴, 増田恭子, 平大樹, 荒木久澄, 荒木信一, 宇津貴,
寺田智祐
(医療薬学 Vol. 43, #11, 601-609)
- ・「電子カルテ記録に基づいたアロプリノール製剤の母集団薬効動態解析」
著者 緒方貴洗, 兼重晋, 松尾宏一, 松永直哉, 小柳悟, 大戸茂弘, 神村英利
(医療薬学 Vol. 43, #11, 630-639)

5) Postdoctoral Award 受賞者の決定

山田(清)理事より、今年度の Postdoctoral Award への応募者は 22 名であったことと、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会において同 Award の選考規程に基づき選考した結果、5 名を Postdoctoral Award の受賞候補者として、本理事会に推挙したことが説明された。協議した結果、次の 5 名への Postdoctoral Award 授与が了承された。(以下、五十音順)

- ・北澤 文章 氏 (独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター)

- ・齋藤 佳敬 氏 （北海道大学病院）
- ・相良 篤信 氏 （名古屋大学医学部附属病院）
- ・鈴木 賢一 氏 （がん研究会有明病院）
- ・前田 真之 氏 （昭和大学 薬学部）

なお、山田(清)理事より、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会では、COI に十分に配慮した上で、全 20 名の選考委員によって選考を実施したことが説明された。

(4) 名誉会員委嘱候補者の推薦

議長より、平成 30 年度の名誉会員の委嘱候補者として、名誉会員推薦内規に則り審議した結果、次の 3 名を推薦候補として推挙したことが説明された。協議した結果、本件は了承され、第 10 回臨時社員総会に名誉会員の委嘱候補者として諮ることとした。

(以下、五十音順)

- ・草井 章 氏 （あすか製薬株式会社）
- ・佐藤 博 氏 （新潟大学 名誉教授）
- ・山本 信夫 氏 （日本薬剤師会 会長）

(5) 平成 30 年度認定薬剤師制度における認定審査結果他

青山理事より、今年度第 1 回認定薬剤師制度委員会で審議した認定薬剤師試験の受験資格、指導薬剤師の委嘱資格、研修施設の認定資格の各資格要件への適合性等に係る判定結果の説明があった。

1) 認定薬剤師の受験資格審査

今年度の認定薬剤師には 121 名より申請があり本委員会で審議した結果、121 名全員が薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験の受験資格を有すると判定したこと、うち 17 名が指導薬剤師の委嘱との同時申請者であることが説明された。協議した結果、当該審査結果が了承された。(なお、指導薬剤師の委嘱と同時申請をした者が当該認定試験に合格した際には、認定薬剤師の認定と指導薬剤師の委嘱の双方が認められることとなる。)

2) 指導薬剤師の委嘱審査

今年度の指導薬剤師には 38 名より申請があり本委員会で審議した結果、37 名が指導薬剤師の委嘱要件を満たしていたと判定したこと、また、1 名の不認定理由として論文数不足であったことが説明された。協議した結果、当該審査結果が了承された。

(委嘱日：本年 6 月 1 日、委嘱期間：本年 1 月 1 日から委嘱者が受けている認定薬剤師の認定期間の満了日まで)

3) 認定薬剤師制度研修施設の認定審査

今年度第 1 期目の認定薬剤師制度研修施設には 14 施設より申請があり、本委員会では従来の判定基準に鑑み、全 14 施設を認定薬剤師制度研修施設として認定可能と判定したことが説明された。協議した結果、当該審査結果は了承された。(認定日：本年 6 月 1 日、認定期間：本年 1 月 1 日から 5 年間)

4) 平成 29 年度認定薬剤師未更新申請者からの嘆願への対応

昨年度の認定薬剤師更新対象の未更新者 2 名より提出された当該更新申請の手続きに係る嘆願(書)への対応として、前回の理事会(第 2 回定例理事会)で出された意見を基に、再度、認定薬剤師認定制度委員会で協議した対応方針が説明された。検証事項として、昨年更新申請の期限までに所定の更新条件を充足していたことが確認できたことより、本事例については 1 年間の更新保留とし、更新保留申請書の提出を求めること。また、嘆願者が望む場合には、今年度の更新申請を認めるという取扱方針が示され、協議した結果、本方針が了承された。

(6) 2018 年度海外研修等助成候補者の選考結果

武田理事より、2018 年度の海外研修等助成事業による助成候補者の募集に 3 名の応募があり、選考委員会において本事業規程及び募集要項に基づき選考した結果、次の 2 名を助成候補者として選考した経緯が説明された。協議した結果、当該 2 名への助成が了承された。なお、次年度以降の本事業の募集にあつては、本助成事業の目的を明確にした本事業規程及び募集要項を見直した上で、当該活動を進めることとなった。(以下、五十音順)

- ・藏田 靖子 氏 (岡山大学病院 薬剤部) . . . 米国医療機関での研修
- ・中川 直人 氏 (奥羽大学 薬学部) . . . 米国で開催された国際学会での発表

(7) 代議員選挙制度の見直しと次期代議員選挙のスケジュール

議長より、近い将来、公益社団法人の認定申請を行うにあたり、現行の代議員の選任方法(代議員選出規程)では認められないため、代議員の選出方法の見直しに係る説明があった。現行の代議員には、全正会員を対象とした選挙で選出される代議員と、複数の理事で構成される推薦委員会の推薦を受けた代議員がいる。公益社団法人では公平・中立に代議員を選出しなければならず、後者の選出方法は不適合と判断されるため、選挙制度委員会において新たな代議員選出要件を整理し、本理事会に対応方針を提示し意見を伺いたい主旨説明があった。

具体的には、次回の代議員は新方式によって選出すること、全ての代議員は選挙で選出すること、代議員選挙は原則として立候補者及び推薦委員会が推薦する候補者を併せた形で実施し、定数を超過した場合には投票により選出すること等を柱とする方針が示された。また、次回の理事会には具体的な代議員選出規程の改正案、推薦委員会及び選挙管理委員会の編成案、選挙スケジュールなどを提示することが説明された。協議した結果、本方針は了承され継続して協議することとなった。

(8) 公益認定取得に対応するための事務局体制の強化策

議長より、事務局体制の強化策として、従前より事務職員の雇用対策を進めているが、公益社団の認定取得を目指すと共に取得後の事務にも適切に対応する必要があるため、諸規程の策定・整備や会計事務に詳しい人材が必要になるため、法務・会計事務

に詳しい人材を嘱託として雇用すること、また、そのための予算を次年度予算に組み入れる方針が説明された。協議した結果、本件は了承された。

(9) 事務局非常勤職員の給与規則の改正

崔理事より、本学会の事務局職員は、原則として当初は非常勤職員として雇用することとしているが、非常勤職員の求人条件は、他社の求人条件と比較し、雇用条件（正規・非正規の別、賃金等）が見劣りするため、優秀な人材を集めにくい状況であること、また、東京・渋谷地区の賃金状況及び都内に事務局を構える類似する学会の求人情報の調査結果を基に、非常勤職員の給与規則の改正に至った経緯が説明された。具体的には、地域手当及び住居手当を新設すると共に賞与の支給条件を見直したことが説明された。協議した結果、本件は了承された。

(10) 旅費規程細則の改正及び業務災害等保険等への加入

- 1) 崔理事より、旅費規程細則の改正案として、勤務先を起点としない場合の旅費の支給方法を新たに規定すること、また、旅費支給の対象となる会議・イベント等への出席時(移動を含む)に、第三者及びものに対して被害を与えた場合の損害賠償費用は本学会の支払対象外となる旨を追記することが説明された。協議した結果、本件は了承された。
- 2) 続いて、旅費支給の対象となる会議・イベント等への出席時(移動時を含む)に、自損又は第三者から被害を受けた場合に、軽微な保障が受けられる業務災害補償保険に加入することが提案され、協議した結果、了承された。
- 3) 続いて、会議・イベント会場内で生じた偶発的な怪我、事故又は物損等について、本学会に損害賠償請求が起こされた場合に備えるための賠償保険への加入に係る説明があり、協議した結果、了承された。

(11) 医療薬学学術第二小委員会によるアンケート調査

寺田理事より、学術第二小委員会ではプレジジョン・メディシンに係るアンケート調査を、本調査の対象となる施設及び本学会員の2通りに分けて実施することが説明された。続いて、本調査は無償利用できるgoogleフォームを活用するが、個人情報を取得しないため仮に漏洩した場合でも特定の個人に損害が生じないことが説明され、その利用に係る相談があった。協議した結果、個人情報の漏洩の懸念がないことよりgoogleフォームの活用によるアンケート調査が承諾された。

(12) 日本癌治療学会・医薬品プロフィール委員推薦依頼への対応

奥田理事より、今年度第1回定例理事会で協議した日本癌治療学会・医薬品プロフィール委員推薦依頼への対応について、橋田評価委員の留任辞退に伴う代替者が未推薦であったため、本学会の委員会編成の交代後、河原がん専門薬剤師認定制度委員会委員長と相談した結果、本学会がん専門薬剤師抗がん薬プロフィール小委員会委員長の松尾宏一氏（福岡大学筑紫病院）を推薦することが説明された。協議した結果、了

承された。

(13) 前年度会費の遡及納入への対応

出石理事より、前年度会費の遡及の嘆願 3 件について説明があり、協議した結果、全ての嘆願を了承することとなった。

(14) その他

山本副会頭(第 32 回年会長)より、第 32 回年会の開催計画として 2022 年 9 月 23 日～25 日までの 3 日間、パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)を中心とする会場をもって開催する計画が説明され、了承された。

5. 報告事項

(1) 平成 30 年度薬物療法専門薬剤師認定制度における認定審査結果

千堂副会頭より、本年 4 月に薬物療法専門薬剤師認定制度委員会において審議された薬物療法専門薬剤師の新規認定者 4 名と薬物療法専門薬剤師研修施設の新規認定施設 14 施設の各認定審査結果については、日程の都合上、本理事会に先立ちメールによる理事会審議を実施し、了承されたことが報告及び確認された。

(2) 第 28 回年会(神戸)準備状況報告

千堂第 28 回年会長より、平成 30 年 11 月 23 日から 25 日までの 3 日間にわたって神戸コンベンションセンターで開催される第 28 回年会の準備状況として、予定プログラム構成と概要、公募シンポジウムの採択件数が 66 セッション(応募件数 104 件)であること、共催セミナーが 43 セッションであること及び寄付獲得の見込み状況や 6 月 20 日まで一般演題を募集していることなどが報告された。

(3) 後援依頼(3 件)

議長より、次の後援依頼を了承したことが報告された。

- ・「第 24 回オンコロジーセミナー」(NPO 法人がん医療研修機構)
- ・「第 13 回日本薬局管理学研究会年会」(NPO 法人日本薬局管理学研究会)
- ・「第 2 回日本精神薬学会総会・学術集会」(日本精神薬学会)

(4) その他

安原監事より、平成 29 年度厚労科研「薬剤師が担う医療機関と薬局間の連携手法の検討とアウトカムの評価研究」に係る総括報告書が紹介され、新たに平成 30 年度から開始される「かかりつけ薬剤師・薬局の多機関・多職種との連携に関する調査研究」に係る説明があった。

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は 16 時 50 分に閉会を宣言し、解散した。